めざせ！オンリーワン インタビュー

確かな技術力と実績で宇宙分野にも挑戦する遠隔制御装置メーカー

株式会社大日電子

吹田納税協会代議員

代表取締役 枚本日出夫（すぎもとひでお）氏

中長距離の無線装置を製造

添田●御社の事業内容を教えてください。

枚本●当社は昭和56年に創立し、無線通信用の遠隔制御装置の設計・製造・販売・工事・保守までを一貫して行っています。「遠隔制御装置」というと難しく思われるかもしれませんが、簡単にいえば、誰かと通話をしたり、装置から別の装置にデータや命令を送ったりするものです。

身近なものですと、テレビのリモコンがその一つです。線でつながっていなくても、ボタンを押すとチャンネルを変えることができますよね。

ただ、当社で製造しているものは、そのような近距離で使うものではなく、中長距離（1～20キロメートル）でやりとりをする装置なんです。

添田●製品としてはどのようなものがありますか。

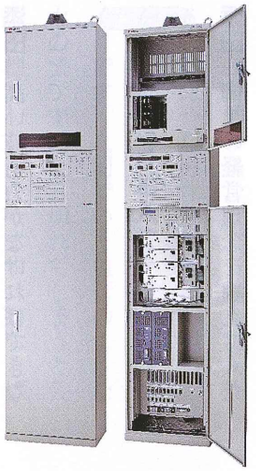
枚本●当社の柱の一つである鉄道関係では、列車乗務員が運転指令所に連絡するときに使う「列車無線」や、運行中の他の列車に危険を知らせる「列車防護無線」など、安心安全な運行に欠かせない装置をつくっています。

ダム関係も力を注いでいる分野の一つです。例えば、ダム上流の雨量や水位の測定データを、下流のダム管理事務所に送信する「ダムテレメーターシステム」という製品や、ダム放流の際、あらかじめ下流にいる人たちに避難通知を行う「放流警報装置」もつくっています。

添田●人の安全にかかわるものばかりですね。

枚本●そうなんです。だからこそ、高品質で信頼される製品でなければなりません。どんなときでも「正確に働く遠隔制御機器を創る」ことをモットーに、長年培ってきた技術力で製品をつくっています。

以前は自社で販売する力はありませんでしたが、信頼と実績を積み重ねてきたことで、現在では鉄道会社や電力会社に自社ブランドとして直接販売するまでになりました。



ダムテレメーター観測装置

他社製品をつなぎ合わせる一流の技術力

枚本●平成26年には、救急医療や災害時に対応する県・市・消防などと連携するための無線システムを開発し、民間の病院に納入しました。救急医療や災害時にかかわる無線システムには、救急車・ドクターヘリ・ドクターカーなどの無線装置があります。これらはメーカーが異なるため、装置をそれぞれ設置して操作しなければなりません。しかしユーザーからすると、全て手が届く範囲で利用したい、一元化したものがほしいと思うわけです。

添田●確かにそうですね。

枚本●そこで、メーカーの異なる他社製品をつなぎ合わせる装置を開発し、ひとまとめにした救急災害無線システムをつくることに成功しました。

添田●なぜそのようなことができたのですか。

枚本●各メーカーと直接の取引があり、それぞれの特徴を知っているからです。長年の取引と実績の中から、この装置の仕組みはこういう仕様だろうと考え、装置をつくり上げました。他社製品の特徴を知り、つなぎ合わせることができるのは大きな強みの一つですね。

様々な要望に合わせて高品質な製品をつくり上げる

インタビュアー
添田尚子（そえだ・しょうこ）
フリーアナウンサー。これまで『かんさい想い出シアター』『ぐるっと関西おひるまえ』（NHK）などに出演。趣味は、短歌・ヨガ・英会話・ポストカード集めなど。

「企業の品質は人」。会社の底力は社員の人格育てから生まれます。

添田●高い技術力がなければできないことですね。

ものづくりは人づくり

添田●御社の経営理念を教えてください。

枚本●「企業の品質は人」です。例えば、一人の社員が手を抜いてクレームが入れば、「なんや大日電子という会社は……」となり、個人の名前ではなく会社全体が対象になるんですよ。製品の品質には、社員一人ひとりの行動の結果が表れるのです。そこで、一人でもそういう人を出さないよう「人格育て」に取り組んでいます。

添田●具体的にはどのようなことをされているのですか。

枚本●「挨拶」「身だしなみ」「掃除」の三つを徹底しています。

「挨拶」は基本中の基本です。お客様が来られた際には作業中でも手を止めて、全員で起立して挨拶をしています。また、毎日挨拶をしていると、「おはよう」と声を掛けたときの相手の反応によって、その人の今の気持ちを察することができるようになります。

毎朝15分間、隅々まで掃除を行う

添田●とても大切なことですね。

枚本●「掃除」については毎朝15分間、社員全員で大掃除をしています。掃除は大切なコミュニケーションツールの一つです。これを通して「感謝・気遣い・謙虚さ」を養うことができ、また「15分」という時間の貴重さを知ることにもつながります。

添田●ボーっとしていたら、15分はあっという間ですものね。

枚本●東大阪の中小企業が集まって取り組んだ「まいど1号」の打ち上げに、プロジェクトリーダーとして参加したのですが、その成功でメディアに取り上げられるようになったこともあり、きれいで埃一つない会社にして、お客様が訪問されたときに「きれいにものづくりをしているな」と感じてもらえるようにしようと思ったのです。社員が誇りをもって仕事に取り組んでいる姿を見てもらうことで、当社のファンになってもらえるんですよ。

リーダーのチャンスを与える勇気が部下を育てる

添田●産学連携の共同研究開発にも積極的に取り組まれていますね。

枚本●はい。きっかけは技術展示会への出展でした。ブースにJAXA（旧・NASDA）の方が来られ、当社の無線技術と、大学が持つ加工技術、JAXAの衛星技術を持ち寄り、宇宙で使用する新システムをつくらないかと誘われたんです。新しいチャレンジで不安もありましたが、得意とする中長距離の無線技術を基に取り組んだ結果、「第1回宇宙ベンチャー大賞」を受賞しました。

株式会社大日電子
本　　社●大阪府吹田市江の木町12-27
創　　立●昭和56年
事業内容●電気通信機器の設計・製造・販売・工事・保守など

添田●素晴らしいですね！

枚本●これをきっかけに大学との研究も盛んに行うようになり、更には宇宙という舞台へ歩みを進めることになりました。

先ほどお話しした「まいど1号」の打ち上げ成功に続き、JAXAに直接納入した、国際宇宙ステーション「きぼう」に搭載された雷観測装置は、過酷な宇宙環境下で3年間の稼働実績を得ることができました。

添田●「まいど1号」の打ち上げは大きな話題になりましたね。

枚本●打ち上げ成功の裏には、若者の挑戦がありました。当時まだ入社6か月だった男性若手社員が担当したのは、「ハーネス」という配線づくりです。人間でいう血管のようなもので、1本でも切れてしまうと装置が機能しなくなります。打ち上げ時のすさまじい振動や温度差に耐えられるハーネスを3年がかりで開発し、見事に目標を達成してくれました。

添田●ものすごく努力をされたのでしょうね。

枚本●入社したばかりの社員に任せていいのか不安もありました。本人も、相当なプレッシャーを感じていました。しかし、リーダーがチャンスを与え、部下はそのチャンスに前向きに努力することで自ら育とうとします。そしてリーダーは、チャンスを与えることが部下の成長につながるということに気付き、リーダーも成長するのです。新人・ベテランかかわらず、全ての社員がいろいろなことにチャレンジできる環境を整えることが、会社の基礎レベルを上げていくのだと思います。

添田●今後の展望はいかがですか。

枚本●「正確に働く遠隔制御機器を創る会社」として、これからも技術力を高め、お客様に満足していただける製品をつくり続けていきます。

宇宙分野に関しては現在、人型ロボットを月に打ち上げて歩かせるというプロジェクトに参加しています。産学官一体となって行っており、宇宙資源の開発やビジネスチャンスの増加、また社員のモチベーション向上など様々な効果が期待できます。世界に向けて、私たちの心意気、日本の高い技術力、そしてものづくりの楽しさを伝えたいと思っています。

添田●本日はありがとうございました。

本社外観